

日本技術士、李康鎬氏を悼む冊子発刊

故李康鎬技術士を悼む

公益社団法人日本技術士会員が韓国の一人の技術士を悼む冊子を配布し、話題になっている。

日本技術士会員中山輝也(元日韓技術士交流実行委員長)氏は去る20日日本の松山市で開催された第44回日韓技術士国際会議で、今年の春に亡くなった韓国の技術士李康鎬氏を悼む冊子を配布し、行事に参加した技術士及び家族たちの心の琴線に触れた。

全40ページに満たない小さな冊子ではあるが、李康鎬氏が日韓技術士国際会議で果たした業績と写真を体系的に整理し、読む両国の技術士たちに新たな感銘を与えた。

「李康鎬氏を悼む」冊子は1990年代初期の第21回から第36回までの16年の間、韓国側委員長として活躍し、両国交流の信頼関係を築き上げ、両国の友好親善の真の架け橋の役割を果たしたと伝えている。

特に、李康鎬氏は日本の松平孝氏とのコンビを組み、今日の日韓技術士会議の隆盛期を築く礎をつくり上げた人物であると著者の中山氏は回想している。

中山氏は李康鎬氏を日韓両国技術士の真の架け橋であるとしながら、「現在の韓国では、底辺に反日ムードがあり、歴史認識とか他の面でも日本との協調を感情的に拒む雰囲気はなくはない。そういう中で、一部の韓国人からみれば、李康鎬さんは親日的でけしからんと言う意見があるかも知れない。しかし我々の40数年の日韓技術士交流の中で果たした役割は大きい」と説明する。

また、李康鎬氏について、中山氏は「主張すべきことははっきり言うし、対立があっても妥協点を常々模索する人だ」しながら、40数年の日韓技術士交流に果たした役割は大きいと評価している。

中山氏は「恐らく遺言も何も残さず、大好きなお酒の甕を片手に独りひっそりと旅立つことにしたのだろう」と言いながら、今にでも「いや、どうも・・・」と言いながら入室してくるような気がしてならないと李康鎬氏を懐かしみ、両国技術士会の技術交流で故李康鎬氏が果たした役割の重要性を広く伝えた。

2015年10月23日 韓国安龍模技術士より受領

翻訳 金岡民善 2015年10月26日

